

SAFETY

統合安全コンセプト

安全の第一歩となるメンテナンスから、事故低減に寄与する予防安全、事故が起きた際の被害を軽減する衝突安全、そして事故後の迅速で的確な救護支援まで。「統合安全コンセプト」は、レクサスがめざす安全に対する考え方であり、車両に搭載されるさまざまな安全システムを独立して機能させるのではなく、連携を図り、高度な安全性を追求していくというものです。LCはキャビン骨格に高強度の部材を採用するとともに、衝突エネルギーを効果的に吸収する構造により、すぐれた衝突安全性を実現しました。また、予防安全パッケージ「Lexus Safety System+」を搭載。レクサスの複数の予防安全機能を組み合わせ、多面的な安全運転支援を可能にしています。



Lexus Safety System +

レクサスの予防安全パッケージ

レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付)



ミリ波レーダーを使用し、設定した車間距離に合わせて速度を調整することで一定の車間距離を保ちながら追従走行。高速道路の渋滞走行時など、停止・発進を繰り返すシーンで、ドライバーの運転負荷を軽減します。

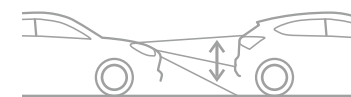
プリクラッシュセーフティ

(歩行者[昼夜]・自転車運転者[昼]検知機能付
衝突回避支援タイプ/ミリ波レーダー+単眼カメラ方式)



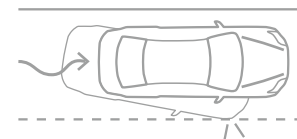
ミリ波レーダーと単眼カメラを用いて前方の車両や歩行者、自転車を検知。警報ブザー、プリクラッシュブレーキアシスト、プリクラッシュブレーキ、交差点右左折支援、低速時加速抑制で衝突回避及び衝突被害軽減を支援。

オートマチックハイビーム[AHB]



単眼カメラによって対向車のヘッドランプ、または先行車のテールランプを検知し、ハイビームとロービームを自動で切り替えることで、他の車両のドライバーの眩惑を低減するとともに、夜間の前方視界確保を支援。

レーントレーシングアシスト[LTA]



高速道路や自動車専用道路等を走行中、レーダークルーズコントロールの作動時に、電動パワーステアリングを制御することで、車線内走行がしやすいようにドライバーのステアリング操作を支援。

人・クルマ・交通環境の「三位一体の取り組み」とともに、実際の事故から学び、改善を繰り返す「実安全の追求」の推進から生まれた予防安全システムが「Lexus Safety System +」です。

2種類のセンサー(ミリ波レーダーと単眼カメラ)による高い認識性能と信頼性、事故低減効果の高い予防安全装備のパッケージ化、そして、世界トップレベルの歩行者検知機能付衝突回避支援を実現しながら、これまで取り組んできた安全システムの連携を進化させました。

この革新的な予防安全システムにより、レクサスは、皆さまに高い安心感をご提供します。

ADVANCED SAFETY [Lexus Safety System +]

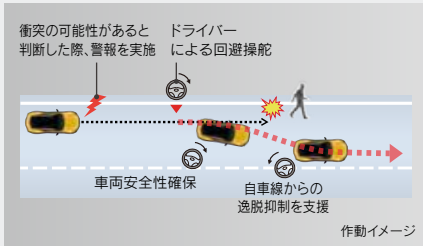
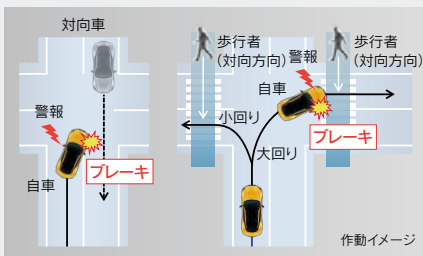
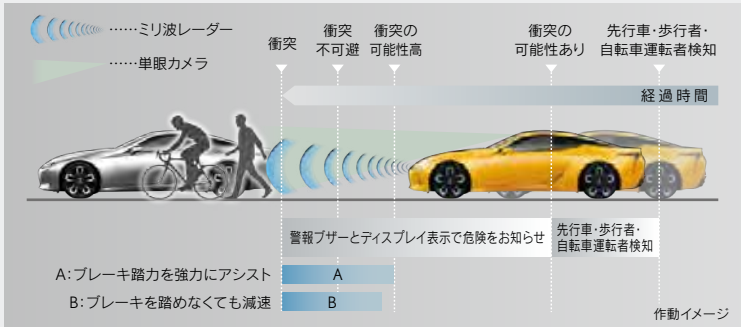
ドライバーに安心感をもたらす、予防安全システムをパッケージ

交差点と緊急時でのサポートが進化した

プリクラッシュセーフティ(歩行者[昼夜]・自転車運転者[昼])

検知機能付衝突回避支援タイプ/ミリ波レーダー＋単眼カメラ方式)

前方の車両や歩行者(昼夜)、自転車運転者(昼)をミリ波レーダーと単眼カメラで検出。警報ブザーとカラーマルチインフォメーションディスプレイ表示で衝突の可能性を知らせ、ブレーキを踏めた場合はプリクラッシュブレーキアシスト。ブレーキを踏めなかった場合はプリクラッシュブレーキを作動させ、衝突回避または被害軽減をサポートします。プリクラッシュブレーキは歩行者や自転車運転者に対しては自車が約10～80km/hの速度域で作動し、たとえば、歩行者との速度差が約40km/hの場合には、衝突回避または被害軽減をサポートします。また、車両に対しては自車が約10km/h以上で作動。たとえば、停止車両に対し自車の速度が約50km/hの場合には、衝突回避または被害軽減をサポートします。なお、対向車に対しては減速して衝突時の速度低減をサポートします。



低速時加速抑制

低速時の自車の直前にいる歩行者、自転車運転者、車両をミリ波レーダーと単眼カメラで認識。前方に対象物がある状態で、停車または徐行状態からアクセルペダルが必要以上に強く踏み込まれた場合には、エンジン出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制し、衝突回避または被害軽減をサポートします。
※プリクラッシュブレーキはドライバーの運転支援を目的としているため、機能には限界があり、道路状況、車両状態、天候状態およびドライバーの操作状態、歩行者や自転車運転者の状態等によっては、作動しない場合があります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。本機能を過信せず、必ずドライバーが責任を持って運転してください。数値は社内測定値。

車線をトレースして運転支援する

レーントレーシングアシスト[LTA]

高速道路や自動車専用道路を走行中、レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)の作動時に、車線維持に必要なステアリング操作支援を行うことでドライバーの運転負荷を軽減します。また、レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)を使用していない場合でも、車線逸脱警報機能、車線逸脱抑制機能は作動可能です。

車線維持支援機能

緩やかなカーブでの支援に加え、滑らかにふらつき少なくレーン中央をキープする走行が可能です。カメラ認識技術の向上により、レーントレース性能が大幅に向上しました。白(黄)線が検出困難な場合でも先行車に追従する支援を行います。また、曲がりきれず車線を逸脱する可能性がある場合には、表示による注意喚起を行い、ドライバーのステアリング操作を促します。
※状況によっては注意喚起が表示されない場合があります。

車線逸脱警報機能/車線逸脱抑制機能

車線から逸脱するおそれがある場合にカラーマルチインフォメーションディスプレイへの表示、および警報ブザーにより警告するとともに、車線からの逸脱を避けるためのステアリング操作を支援します。さらに、車線の判断については、白線だけでなくアスファルトと草・土・縁石などの境界から逸脱すると判定した場合も支援します。
※安全性の観点から、ドライバーはステアリングを持ち続ける必要があります。手を放すと、車線逸脱抑制機能が停止します。
※レーントレーシングアシスト[LTA]は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者はつねに自らの責任で周囲の状況把握し、ステアリング操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。
※車線逸脱警報機能(車線維持支援機能中は除く)、車線逸脱抑制機能は約50km/h以上で作動します。※例えば次のような条件下では、車線維持支援機能、車線逸脱警報機能、車線逸脱抑制機能が正常に作動しない場合がありますため、使用しないでください。●車線と見間違えるような路側構造物がある時(ガードレール、反射ボールなど) ●分合流付近を走行中 ●急カーブを走行中 ●雨・雪・霧などで車線が見えにくい時 など
※例えば次のような条件下ではシステムの作動条件が満たされず車線維持支援機能、車線逸脱警報機能、車線逸脱抑制機能の作動をキャンセルする場合があります。●車線を見失った時 ●ドライバーの追加運転操作を検出した時(ステアリング、ブレーキ、アクセルの操作など) など
※車線逸脱警報機能、車線逸脱抑制機能は走路の境界がはっきり見えない場合、または直線的ではない場合には正常に作動しない場合があります。
※故意に車線から逸脱して走行するなど、システムの作動を確認する行為はたいへん危険です。絶対におやめください。
※車線維持支援機能が先行車に追従する支援を行う場合、先行車が車線を右、または左に片寄って走行、または車線変更した時は、先行車の位置に合わせて自車も片寄って走行し、レーンをはみ出すおそれがあります。先行車がふらついた時は、自車もふらついて走行し、レーンをはみ出すおそれがあります。※カラーヘッドアップディスプレイは全車にメーカーオプション。

車線内の停車と救命要請を自動で行う

ドライバー異常時対応システム

レーントレーシングアシスト[LTA]制御中にドライバーの無操作状態が継続している場合、音と表示と緩減速による警告でドライバーに操作を促すほか、ハザードとホーンで車外に異常を報知しながら自車線内に減速停車し、自損・加害事故の回避・事故被害低減を支援します。停車後は、ドア解錠やヘルプネット*自動接続による救命要請も行い、早期のドライバー救命・救護に寄与します。

*ヘルプネット*はG-Linkに含まれるサービスです。G-Linkのご利用には別途契約が必要となります。詳しくは93ページをご覧ください。
※ドライバー異常時対応システムは自動車専用道路(一部を除く)を約50km/h以上で走行している場合に作動します。体調異常を直接検知できるわけではないため、システムが正常な運転操作と判定した場合は作動しません。



LCは「セーフティ・サポートカー」です。

セーフティ・サポートカー(サポカー)は、政府が交通事故防止対策の一環として普及啓発しているものです。自動(被害軽減)ブレーキ[対歩行者・対車両]の安全運転を支援する装置を搭載し、ドライバーの安全をサポートします。
■ Lexus Safety System +

車間距離を保ちながら追従走行する

レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)

ミリ波レーダーと単眼カメラを使って先行車を認識し、車速に応じた車間距離を保つことで追従走行を支援します。先行車が停止したときは、自車も停止して停止状態を保持。先行車が発進したときは、ドライバーの操作によって発進し、追従走行を再開します。高速道路の渋滞走行時など停止発進を繰り返すシーンで、ドライバーの運転負荷を大幅に軽減します。ミリ波レーダーの検知角度広角化と、単眼カメラによる広い前方認識範囲により、特に前方車両に対する割り込み検知にすぐれた認識性能を確保しています。また、約80km/h以上で、ウインカー操作をした際は、遅い先行車がいとも、追い越しに向け徐々に加速を開始し、スムーズな走行を支援します。さらに、レーダークルーズコントロールで走行中、システムが必要と判断した場合、ステアリングの切り始めて速度抑制を開始するカーブ速度抑制機能を装備しています。

※本機能は、ドライバーの運転支援を目的としているため、機能には限界があり、道路状況、車両状態および天候状態等によっては、ご使用にできない場合があります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。

ロー・ハイビームを自動で切り替える

オートマチックハイビーム[AHB]

夜間走行時に、周囲の明かりの状況によりハイビームで走行可能と判断した場合、ロービームをハイビームに自動的に切り替え、前方視界確保をアシスト。先行車や対向車などを検出するとハイビームからロービームへ切り替え、ドライバーの切り替え忘れを防ぐとともに手動操作の煩わしさを軽減。スイッチ操作でオフにすることもできます。

※ロー・ハイビームの切り替え自動制御には状況により限界があります。運転時はつねに周囲の状況に注意し、必要に応じて手動で切り替えるなど、安全運転を心がけてください。

※安全装置の各機能の作動には、速度や対象物等の条件があります。また、各機能はドライバーの運転支援を目的としているため、機能には限界があり、道路状況、車両状態、天候等により作動しない場合があります。詳しくは、取扱説明書、またはlexus.jpをご覧ください。レクサス販売店におたずねください。
※安全装置はドライバーの安全運転を支援するためのものです。機能を過信せず、安全運転を心がけてください。

道路標識を表示し告知も行う

ロードサインアシスト[RSA]

単眼カメラで認識した「最高速度」「はみ出し通行禁止」「車両進入禁止」「一時停止」の道路標識を、カラーマルチインフォメーションディスプレイに表示します。カラーヘッドアップディスプレイには、「最高速度」もしくは「車両進入禁止(告知時)」の道路標識を表示。道路標識の見落としを減らし、安全運転を促します。また、単眼カメラによって認識された「最高速度」「はみ出し通行禁止」「車両進入禁止」の道路標識に対し、違反動作を行っているときシステムが判断した場合、表示の反転や点滅でドライバーに告知します。

※カスタマイズにより、ブザー音(「最高速度」「車両進入禁止」「はみ出し通行禁止」)を作動させることや、告知無しにすることも可能です。
※道路状況、車両状態および天候状態等によっては、ご使用にできない場合があります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。
※カラーヘッドアップディスプレイは全車にメーカーオプション。

先行車の発進を知らせる

(付帯機能)先行車発進告知機能[TMN]

先行車の動きをミリ波レーダーと単眼カメラで検出し、自車が先行車に続いて停止後、先行車が発進し一定距離を走行してもなお自車が停止し続けている場合に、カラーヘッドアップディスプレイとカラーマルチインフォメーションディスプレイ表示、およびブザーで先行車の発進をお知らせします。

※シフトポジションが「P」「R」以外でブレーキペダルを踏んで停車している時に作動します。シフトポジションが「N」の時、またはレーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)機能が自車が停止した場合、さらにシフトポジションが「D」の時にブレーキホールドを使用した場合は、ブレーキペダルを踏んでいなくても作動します。※先行車が約4m以上進んでも自車が止まったままだとシステムが判断した場合に作動します。なお、機能のON/OFFおよび通知タイミングの変更が可能です。詳しくはレクサス販売店におたずねください。※カラーヘッドアップディスプレイは全車にメーカーオプション。

⚠ Lexus Safety System + を安全にお使いいただく上での留意事項説明

Lexus Safety System +は予防安全パッケージです。

ご契約に際し、Lexus Safety System +、およびその各システムを安全にお使いいただくための留意事項についてご説明いたします。

ご使用になる際のお客さまへのお願い

- 運転者には安全運転の義務があります。運転者は各システムを過信せず、つねに自らの責任で周囲の状況把握し、ご自身の操作で安全を確保してください。
- 各システムに頼ったり、安全を委ねる運転をすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車両姿勢が変化する架装・改造や、各システムのカメラ・センサーを遮るような架装・改造を行うと、各システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ご使用前には、あらかじめ取扱説明書で各システムの特徴・操作方法を必ずご確認ください。



機能説明
情報はこちら

※装備類の詳しい設定につきましては、主要装備一覧表でご確認ください。

OTHER SAFETY

さまざまなシーンで安心感を高める数々のサポート

車両後側の安全性に寄与する

ブラインドスポットモニター [BSM]

走行中、ドアミラーでは確認しにくい後側方エリアに存在する車両に加えて、隣接する車線の最大約60m後方までモニターし、急接近してくる車両も検知します。車両を検知するとドアミラー内のインジケーターが点灯、車両を検知した状態でウインカーを操作するとインジケーターが点滅し、より注意を喚起します。

※道路状況、車両状態および天候状態等によっては、ご使用になれない場合があります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。
※ブラインドスポットモニター [BSM] およびリヤクロストラフィックアラート [RCTA] はあくまで運転補助機能です。本機能を過信せず、運転に際してはドライバーご自身で周囲の安全状況を直接確認してください。詳しくはレクサス販売店におたずねください。



駐車時の安全を多角的に支援する

リヤクロストラフィックアラート [RCTA]

駐車場から後退する際に、左右後方から接近してくる車両をブラインドスポットモニター [BSM] のレーダーにより検知。12.3インチタッチディスプレイへの表示、ドアミラー内のインジケーター点滅、およびブザーでドライバーに注意を喚起します。

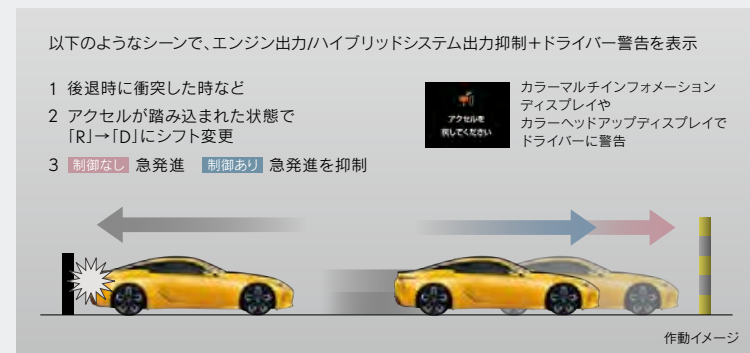
※道路状況、車両状態および天候状態等によっては、ご使用になれない場合があります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。
※ブラインドスポットモニター [BSM] およびリヤクロストラフィックアラート [RCTA] はあくまで運転補助機能です。本機能を過信せず、運転に際してはドライバーご自身で周囲の安全状況を直接確認してください。詳しくはレクサス販売店におたずねください。



急な発進や加速の防止をサポート

ドライブスタートコントロール

シフト操作時における急発進・急加速を抑制し、衝突時の被害軽減に寄与します。例えば、後退時に衝突して慌てたドライバーが、アクセルを踏み込んだままシフトを「R」から「D」へ変更した際、表示で注意を促すとともに、エンジン出力/ハイブリッドシステム出力を抑えます。



ロールオーバー時にボディへの荷重の分散に寄与する

アクティブロールバー

横転時にボディの一部として荷重を受けるアクティブロールバー。通常時は後席後方のパツケージトレイ下に格納し、フラットなデザインを実現。万一の横転の際には、車両上方へ展開し、ボディへの荷重の分散に寄与します。

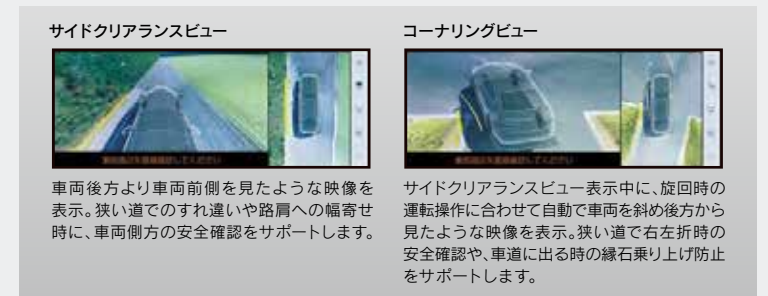


車両周辺の安全確認をサポートする

パノラミックビューモニター (床下透過表示機能付)

運転席から目視しにくい車両周囲の状況をリアルタイムで確認できます。ボディやシートを透かして見たようなシースルービューや、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューも採用。さらに、床下透過表示機能*の設定により、車両直下およびタイヤ付近のアンダーフロア映像を表示して、駐車やすり抜けを支援します。

*あらかじめ12.3インチタッチディスプレイオーディオ (コネクティッドナビ対応) Plusにて床下透過表示機能を設定 (ON) することで、車体の動きに連動し、床下透過画像が表示されます。※画面に映る人や障害物は実際の位置や距離と異なります。映像を過信せず、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら運転してください。なお、光学式ナンバープレートは装着できません。

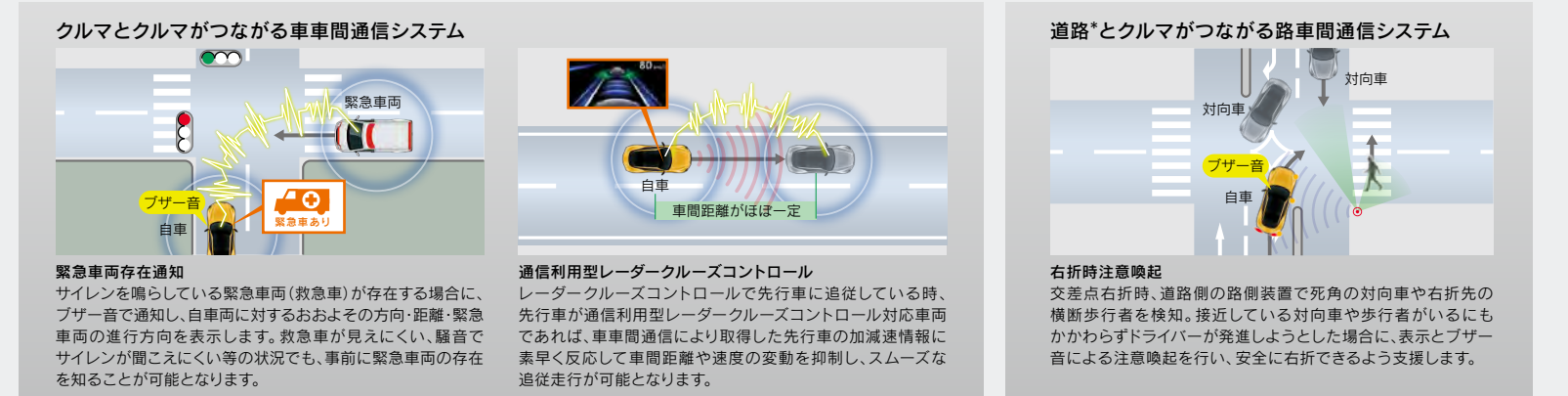


ITS 専用周波数で通信し、安全運転をサポート

ITS Connect

クルマのセンサーでは捉えきれない見通し外の情報や信号等の情報を、クルマとクルマ、あるいは道路*とクルマが直接通信し、カラーヘッドアップディスプレイやカラーマルチインフォメーションディスプレイでの表示、ブザー音でドライバーに知らせ、安全運転を支援するシステムです。

*路車間通信システムに対応した路側装置は、2024年12月現在、宮城県、茨城県、埼玉県、東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、広島県、福岡県に設置されています。※本システムは「路側装置が設置された交差点」または「本システムが搭載された周辺車両」との間でのみ作動します。また、路側装置が設置された交差点であっても、交差点に入るときの方向によっては、作動するシステムが異なる場合があります。本システムはあくまでも補助機能です。システムを過信せず、つねに道路状況に注意し、安全運転を心がけてください。
※緊急車両存在通知は通信機を搭載していない車両の存在は案内されません。ドライバー自身が周囲の安全を確認してください。
※通信利用型レーダークルーズコントロールは、先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。
※右折時注意喚起は、路側装置が設置された交差点であっても、路側装置の種類や、交差点に入るときの方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者がいることを注意喚起しない場合があります。なお、対向車や歩行者が路側装置 (感知器) の検出範囲外に存在している場合や、路側装置 (感知器) が車両の特徴や環境条件・経年変化等によって未検知や誤検知を起こす場合は、注意喚起しないことや、通知内容が実際の道路状況と異なる場合があります。ご利用可能なサービス提供場所については、レクサス販売店におたずねください。
※下記の機能は一例です。
※カラーヘッドアップディスプレイは全車にメーカーオプション。

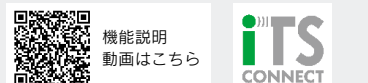


障害物との接近を知らせる

クリアランスソナー & バックソナー

超音波センサーを利用して、車両前方や車両後方の障害物を検知。障害物との距離と接近部位の位置を12.3インチタッチディスプレイに表示し、同時に音声とブザーでドライバーに注意を促します。

※ソナーの感知範囲、作動速度には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。



機能説明
動画はこちら



標準装備

※装備類の詳細い設定につきましては、主要装備一覧表でご確認ください。